

## 群馬だより—尾瀬の現状

●  
嶋田 久夫  
(群馬県高崎市)

札幌生活を切り上げて群馬に帰ってから、早くも7年が経ちました。札幌にいた時によく歩いた円山の遊歩道に咲いていたエゾエンゴサクの花やニセコの山々を懐かしく思い出しています。

さて、現在、群馬で大きな問題となっているのは利根川の支流である吾妻川に建設予定の八ッ場ダムをめぐる問題ですが、ここでは2007年に単独の国立公園となった尾瀬の現況について述べたいと思います。

最近全国各地でクマやシカ、イノシシ、サルなどによる森林被害や農作物被害が報告されています。私の住む付近でも山里からは結構離れているのですが、タヌキやハクビシンなどが出没し、夜散歩していたときに会ったなどと何かと話題となっています。

最近、尾瀬で問題となっているのは、北海道の知床でも話題となっているシカの増加です。シカによる高山植物などの食害が問題となったのは、日光の戦場ヶ原やシラネアオイで知られた日光白根山でした。昨年の夏、群馬弁護士会と栃木弁護士会の共同調査で10年ぶりに現地調査をしましたが、日光では柵の設置、シカの捕獲などの措置により植生はだいぶ復元しているようでした。

尾瀬で初めてシカの姿が見られたのは1995年のことでしたが、その後増加を続け現在では環境省の調査でも推計300頭が尾瀬ヶ原に侵入してい

ると言われています。その結果、尾瀬の高山植物が食害により大きな被害を受ける事態となっています。昨年は、尾瀬を象徴するニッコキスゲの当たり年といわれるほど多くの黄色い花が咲きましたが、尾瀬ヶ原の東半分、福島県檜枝岐村方面の大江湿原などはシカの食害でまったく花を見られませんでした。

そこで、昨年、環境省は尾瀬におけるシカの捕獲に踏み切りました。すぐれた景観を有する特別保護地区でのシカ捕獲に取り組むのは、日光、吉野熊野、知床に次いで4例めとなります。シカの捕獲は、尾瀬ヶ原の東部で取り組まれています。檜枝岐村の猟友会会員の高齢化からワナの設置による方法がとられていますが、結果は思わしくないようです。シカの保護と植物の保護との兼ね合いがむずかしい問題ですが、尾瀬の保護問題に早くから取り組み自宅を奥利根自然センターとして開放して多くの後進を育てた内海廣重さんが昨年亡くなったことはとても残念なことでした。